

僕は、昭和二十二年に足柄小学校に入学した。

学校は、明治九年に多古小学校として開設され、令和四年で百四十七年を経た歴史があるという。その後大正九年尋常高等足柄小学校となって以来、芦子や富水、久野などの分教場がそれぞれ発足、終戦から二年目に市制が敷かれて、尋常高等足柄小学校が小田原市立足柄小学校となったそうだ。

その記念すべき春、入学したことになる。

僕ら小学校、

中学校の大家さんとなった

そしてこの年五月、小田原市立第三中学校（後の白山中学校）が開校した。

その辺を調べてみると、面白いのは、その新しく誕生した中学校の校舎は小学校と全く同じ住所（多古）、つまりずっと古い歴史の足柄小学校の校舎に間借りする格好となったらしい。いわば大家さんである僕ら小学生の居宅に中学生が居候したことになる。何だか不思議な光景を思い浮かべるが、僕にはそんな同居の覚えが無く、ピンと来ないまま今日に至ってしまった。

大分前の会話で、友人の下赤君によれば、午前と午後に分けて使用していた記憶があるという。そういえば、年配となる中学生の姿を学内で見かけた覚えが無い。

また、どうやら他の城山や白鷗などの中学校も、発足時は校舎を近隣の歴史上先輩にあたる小学校から借り受けて使用したらしい。

そして昭和二十七年、今度は足柄小学校が多古の校舎を白山中学校に譲って、現在の大雄山線井細田駅近接に移ることになる。僕らが五年生か六年生の頃だ。

他の小学校も同じような歩みを辿ったそうである。

まさに僕らの世代は教育の場の変遷を身を以って体験してきたことになる。

僕の頭の中には以前から、小学校の思い出も中学校のそれと同じような場所から発していて、在籍していた両校の所在がごちゃ混ぜになっていたが、後にこの辺りの事情を知って合点がいった次第である。

・・・・・・・・・・・・・・・・

足柄小学校に入学して間もなく、運動場入り口の桜の木の下で周りの同級生らしき数人の子供らに本を読んで聞かせる生徒がいて、子供が他人に読んで聞かせる朗読など思いも寄らなかつた文盲に等しい僕には、その光景が衝撃的だった。

この思い出を辿って書き出した、その最中に、そうだ！この場所だ。ここは間違いなく中学生になってからも使用した運動場で、桜の木が周りを取り巻いていた。朗読する衝撃的なシーンとともに、小学校と中学校が同じ校舎であった記憶の痕跡がはつきりと甦ったのだ！

なお、朗読をしていた生徒とは間無しに仲良くなった。名は今道周雄君といった。箱根山の麓、久野に住んでいたが、収穫の秋祭りにはよく行ったものだ。御輿や引き回し屋台の他、金魚掬いや綿菓子の手が立って、舞台では国定忠治であったろうか、刀を携えた旅役者が大見得を切って任侠物を演じていた。

この頃、こうした収穫を祝ったり願ったりするお祭りは、あちらこちらで行なわれ、母の実家の大雄山線井細田駅のすぐ裏にある八幡神社や酒匂川向こうの飯泉観音でも賑やかに催行され、暮れ正月と同じように楽しみにした。